

施している。さらに、2004（平成16）年度からは、青少年（中・高校生）を対象としたエイズ

予防教育を実施している。

## 第11節 妊娠・出産の支援体制、周産期医療体制を充実する

### 1 「いいお産」の普及

安全で快適な満足できる「いいお産」について、関係者や妊婦が共通の理解を持つことができるよう、妊産婦健康診査等様々な機会をとらえて働きかけを行っている。

また、安全で満足できるお産に関する理解・普及を図る事業を実施する自治体への助成等を行うことにより「いいお産」を推進している。

また、妊産婦健康診査や新生児訪問指導等において、助産師等と連携を図りつつ、母乳についての保健指導を実施すること等により、母乳育児を推進することとしており、子ども・子育て応援プランにおいても、母乳育児の割合を増加傾向にするという目標を盛り込んでいる。

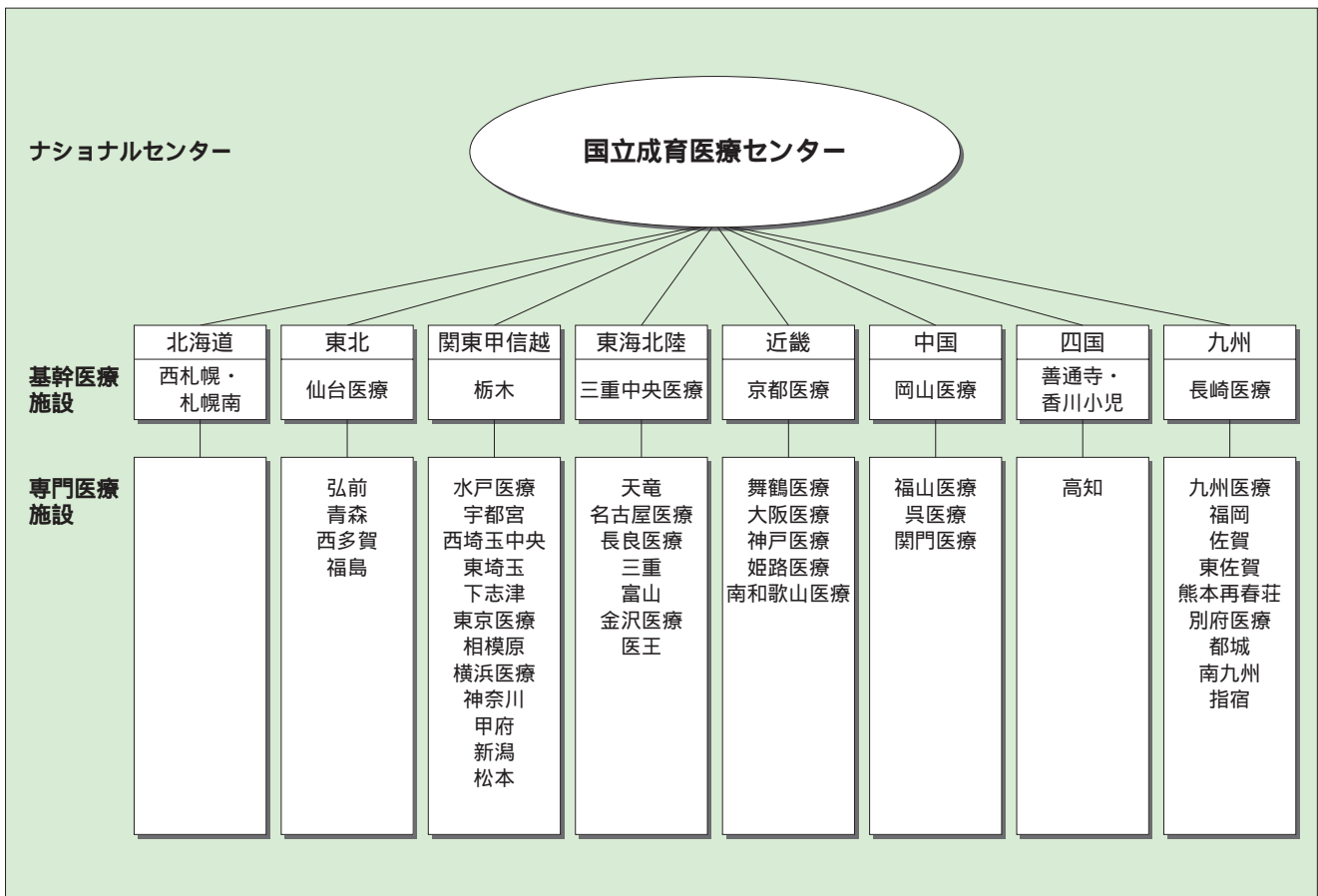
### 2 周産期医療ネットワークの整備

リスクの高い妊産婦や新生児に適切な医療を提供するための、一般の産科病院等と高次の医療機関との連携体制である周産期医療ネットワークの整備を行っている。

さらに、地域の産科医不足も課題となっていることから、地域において、安全、安心な周産期医療の確保を図るため、2005（平成17）年度より「周産期医療施設のオープン病院化モデル事業」を実施している。

国が担うべき政策医療の一つである成育医療分野では、国立成育医療センターを中心とした「成育医療政策医療ネットワーク」を構築し、独立行政法人国立病院機構のネットワーク構成

第2-4-6図 成育医療政策医療ネットワーク



施設と連携して、医療の質の向上のための研究の推進や標準的医療等の普及に取り組んでいる。

特に、国立成育医療センターでは、生殖、妊娠、胎児期、周産期、新生児期、小児期、思春期、成人期に至る一連のサイクルに関わるすべ

での身体的、精神的疾患を対象とした高度先駆的医療、医療従事者への教育研修、治療に直結した臨床研究及び全国の医療機関等へ医療情報の発信に取り組んでいる。

## 第12節 不妊治療への支援等に取り組む

### 1 不妊治療における体制整備と支援の在り方に関する検討

体外受精及び顕微授精は経済的な負担が大きいことから、2004（平成16）年度から、次世代育成支援の一環として、配偶者間のこれらの不妊治療に要する費用の一部を助成し、従来の相談事業と併せて総合的な支援対策を講じている。

### 2 「不妊専門相談センター」の整備

地域において中核的な役割を担う保健医療施設などにおいて、専門医等が、不妊に関する医学的な相談や、不妊による心の悩みの相談などを行う「不妊専門相談センター事業」を実施している。

## 第13節 良質な住宅・居住環境の確保を図る

### 1 子育てを支援するゆとりある住宅の確保の支援

住宅金融公庫の証券化支援事業等による住宅取得の支援をはじめ、特定優良賃貸住宅制度や都市再生機構における民間供給支援型賃貸住宅制度により良質なファミリー向け賃貸住宅の供給を促進する。また、新規に建築される公共賃貸住宅はバリアフリーを標準仕様としている。

### 2 公共賃貸住宅における多子世帯の支援

公営住宅は、住宅に困窮する低額所得者に対して低廉な家賃で賃貸することにより、その居住の安定を図ることを目的とするものであるが、多子世帯については、入居者の選考に際し事業主体である地方公共団体の判断により優先入居の取り扱いを行い、また、都市機構賃貸住宅において新規募集時における当選率の優遇措置を行っている。

### 3 保育所等を併設した住宅等の供給の促進

大規模な公共賃貸住宅団地の建替えに際し保育所等の一体的整備を原則化し、また、市街地

再開発事業等において施設建築物内に保育所等を導入した場合の補助や保育所等に関する容積率制限の緩和等を行っている。

### 4 職住近接の実現

都心における職住近接により子育て世帯を支援するため、既存オフィス等のファミリー向け賃貸住宅への転用をはじめとする都市型住宅の供給を促進している。

### 5 シックハウス対策の推進

2002（平成14）年7月に、建築基準法（昭和25年法律第201号）が改正され（2003（平成15）年7月1日施行）、新たにホルムアルデヒドに関する建材の制限、換気設備設置の義務付け等が規定された。また、子どもの健康への影響を考慮し、シックハウス対策に係る調査研究を進めるとともに、シックハウス症候群に関する学校関係者の理解の一層の促進等、学校におけるシックハウス対策を推進している。